

料金所ブースを取り除くと安全性が大きく向上することが研究で明らかに

掲載日	2009年12月11日
国名	アメリカ
分類	ETC
出典	AASHTO(米国全州道路交通運輸行政官協会) Journal
タイトル	Removing Tollbooths Produces Major Safety Improvements, Study Finds

開放型料金施設を導入すると料金所エリアでの交通事故数は急落すると交通コンサルタント会社が報告した。

PBS&J社は3つの著名な有料道路会社で料金所での衝突事故のデータを収集した。3会社とはフロリダターンパイク (Florida's Turnpike Enterprise) ,オーランド/オレンジ郡高速道路 (the Orlando/Orange County Expressway Authority) , テキサスターンパイク (the Texas Turnpike Authority) である。データによると開放型の料金徴収施設に転換することで事故率が60%以上減少する。

従来の料金所では車両は減速し、現金またはETC車載器で料金支払いをしている。開放型料金徴収では、ETC車載器搭載車のみが支払い可能となる。料金所ブースは取り除かれ、車両は減速することなく料金所を疾走する。3会社ともいくつかの料金所ブースを最近、開放型に転換した。

テキサスターンパイクなどは選択肢を用意し、ETC車載器を持つ車両は開放レーンを高速通過し、現金支払い車は従来ブースに寄る形式にしている。テキサスターンパイクでは2007と2008年には96件発生した衝突事故が開放型料金徴収レーンでは0件と報告した。

料金所での事故は車両と料金所施設のどこか(ガードレール、車止め、緩衝装置、フェンス、照明柱など)との接触であり、開放型はそれらの障害物がなくなるため当然事故が減少するとコンサルタント会社は言う。

料金所ブースでのその他の事故は車同士の減速不足による衝突である。そのような事故も減速の必要のない開放型では劇的に減少すると報告している。